

年頭の「あいさつ」

夢や希望を

実現できる年に

京都府知事 **西脇 隆俊**



新年あけましておめでとーございます。

府民の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返って

昨年は新天皇が即位され、平成から令和へ、新しい時代が幕を開けました。令和という元号には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という願いが込められております。日本文化の中心である京都府として、府内の多様な地域文化を世界へ発信していく務めを改めて自覚する契機ともなりました。

振り返りますと、6月のG20大

阪サミット、9月のI COM（国際博物館会議）京都大会、そして先のラグビーワールドカップ2019日本大会と、折々に多くの観光客の皆さまにお越しいただき、世界中から日本が、そして京都が注目される一年でありました。

さらに、京都大学ご出身の吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞され、2年連続で京都ゆかりの方が栄誉に輝くという大変うれしい出来事もございました。

一方、京都アニメーション第1スタジオの放火によって多くの方々が亡くなるという大変痛ましい事件も起こりました。衷心よりお悔やみを申し上げますとともに、今なお治療を続けておられる方々の一日も早いご回復を祈念申し上げます。京都府といたしましても、引き続き、被害者やご家族の皆さまに寄り添った支援をしてまいります。

「京都夢実現プラン」始動

われわれが置かれている社会情勢を見渡すと、少子・高齢化と人口減少の本格化に加え、グローバ

ル化の進展によって国際情勢の変化がわれわれの生活にも直接影響を及ぼす状況にあります。また、頻発する自然災害など多くの課題が横たわっています。これらに対応するため、京都府では昨年10月、府政運営の指針となる新しい京都府総合計画「京都夢実現プラン」を策定いたしました。

この総合計画は、「一人ひとりの夢や希望が全ての地域で実現できる京都府」という2030年の将来像をめざし、行政分野や地域ごとの具体的な取組方策等を定めたものです。府民の皆さまや地域、企業などと共に取り組みを進め、総力を結集し、めざす将来像の実現に向け果敢にチャレンジしてまいります。

京都の潜在力を生かすために

本年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020」）が、そして来年にはワールドマスタースゲームズ2020（関西が開催されます。こうした機運の中、府内初となる専用球技場「京都スタジアム」が完成し、

迫力のあるスポーツイベントを臨場感いっぱい楽しんでいただけるようになりました。同スタジアムを京都府中北部地域へのゲートウェイとして地域活性化を図るとともに、スポーツを通じて関西一円を元気にしてまいります。

そして、東京2020の開催に合わせ、日本の美を体現する「日本博」が文化庁主導のもと全国で開催されます。この機会に京都府では「京都文化力プロジェクト2016-2020」の総仕上げとなる総合的な文化の祭典を開催するほか、2021年度を目標とする文化庁の本格移転を見据え、文化の保存・継承・創造・発展にも力を注ぎます。

また、伝統産業とその技を生かした新技術、観光・文化産業、ハイテク産業が三位一体となり、さらに大学等が集積した京都の潜在力を大いに発揮することが求められます。京都経済百年の計となる「京都経済センター」を核に、起業から成長支援、海外展開、人材育成まで、イノベーションが起り続ける事業環境の創造を進めてまいります。

共に、新しい時代へ

こうした取り組みの源は人であります。就任以来、一貫して進めてきた「子育て環境日本一」の実現に向け、2040年までに全国平均並みの合計特殊出生率を達成するべく「子育て環境日本一推進戦略」を策定しました。この目標の達成は容易なことではありませんが、「水滴石を穿（うが）つ」と申します通り、粘り強く取り組んでまいります。

今年、十二支の始めである子（ね）年。『漢書』律曆志によると、新しい生命が種子の中に萌（きざ）し始める状態を表している」とされています。この新しい年を、府内全ての地域が活力にあふれ誇りを持てる、新しい時代の京都を築き上げるための第一歩とするため、共に歩んでまいります。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



**笑顔あふれる京都を共に！
京都の強みである市民力・
地域力・文化力を更にいかして！**
京都市長 **門川 大作**



あけましておめでとうございます。

皆様の常々の御指導・御支援に心から感謝し、この一年の御多幸をお祈り申し上げます。

市長就任以来、現地現場主義に徹し、お訪ねした一万を超える現場・市民の皆様の御活動の場で、改めて京都の市民力・地域力の素晴らしさに感動、感謝。皆様のお声を市政にいかし、厳しい財政の中でも、いのちと暮らしを守り、福祉、子育て・教育、文化、環境、景観、経済の活性化、防災・安心安全を最優先に、皆様と共に汗する「共汗」で挑戦し続けてまいりました。

お陰様で、例えば、ごみ量はピーク時から半減。国基準の1.3倍の優れた保育士を確保し、保育所等

6年連続待機児童ゼロ。小中高の教育を充実。市内の犯罪は5年間で45%減と過去最少。京都経済百年の計「京都経済センター」をオール京都で開設し、中小・地域企業を応援する条例を制定、支援体制を拡充。

民間で実施する方がよい仕事は民間に！行財政改革の断行！市職員を3,300人削減、年間270億円の費用を捻出し、市民の皆様にお約束した政策・公約を実現！（国の交付税の大幅削減、昨年の災害対策、福祉予算増等により財政は厳しい状況）。

これらの結果、京都市が、「誰一人取り残さない」社会を目指す国連の「SDGs」先進度や都市力の総合評価（2年連続）で全国1位に。そして、市内の雇用者数は5年間で57万人（うち正規雇用42万人）増、市税収入は6年間で255億円増など、未来に明るい兆候！市民の皆様の御尽力の賜物と心から感謝しています。

一方、観光消費額が1兆円（京都市民の年間消費支出の52%に相当）を突破した観光面では、「混雑」「宿泊施設の急増」「マナー対策」など新たな課題も。違

法民泊は99%を営業中止・撤退させ、さらに市民の安全安心と地域文化の継承を重要視しない宿泊施設は「お断り」するなど、市民生活を最重要視した持続可能な観光へ、皆様と共に50の取組を徹底します。

新たな年を迎え、京都のまちをより安全安心に、より豊かに発展させていくべく全身全霊をかけて取り組む決意を新たに。

京都市京セラ美術館の再オープン、文化庁の京都への全面的移転や京都云々の移転も見据え、文化・科学、地域力・人間力などあらゆる京都の強みをいかし、新産業の創出や、社会課題の解決を目指した「スタートアップ・エコシステム」構築へ！それらを市民生活の豊かさにつなげ、「世界の文化首都・京都」への飛躍を目指し、市民の皆様と共に全力を尽くしてまいります。

